



秦 逸三教授

1880~1944

(明治13年~昭和19年)



▲化学実験指導 (中央 秦教授)



▲創設期の糸人米沢工場



山形大学工学部 社団法人 米沢工業会

(工学部企画係)

(山形大学工学部内)

〒992-8510 米沢市城南4丁目3番16号

〒992-0038 米沢市城南4丁目3番16号

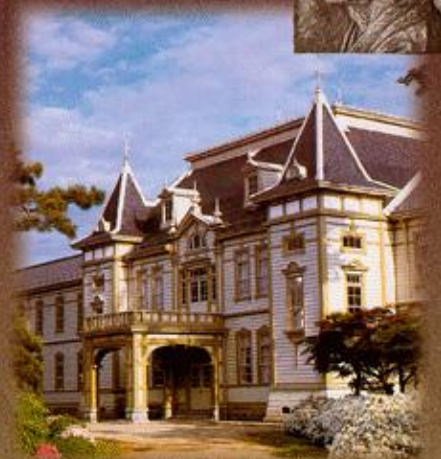
TEL. 0238-26-3005

TEL. 0238-22-7866

FAX. 0238-26-3400

FAX. 0238-22-7866

人造繊維発祥 秦 逸三教授 記念室



記念展示館

(重要文化財 米沢高等工業学校本館)



記念室内部

— 留学経典のガービナス —

「我が国人造繊維の生みの親」

秦 逸三

背景

最初の人造繊維である人造絹糸(人絹、レーヨン)が工業化されたのは明治24年(1891)である。

人絹工業が我が国に影響を与え始めたのは明治35年(1902)といわれる。以来、明治末まで硝化綿法、鋼安法人絹の技術導入が試みられたが、失敗に帰していた。一方、後に支配的な方法になるビスコース法人絹の技術は国際カルテルで保護され、その導入は絶望的であった。このような中で、我が国独自の開発路線が芽生えてきた。

我が国人造繊維の発祥

秦逸三は明治41年(1908)東京帝大工学部応用化学科を卒業し、神戸税関を経て、明治45年(1912)米沢高等工業学校(現山形大学工学部)応用化学科に赴任した。

秦は着任早々、ビスコース人絹の研究に着手した。大正2年(1913)には製造実験を学内で公開するまでになり、起業家金子喜吉から資金援助を受けるようになった。

研究の進捗を見た金子は、大正4年(1915)に米沢人造絹糸製造所を発足させた。教授を辞した秦は技師長として、東工業の技師長久村清太の協力も得て人絹の工業化に専念し、それに成功した。秦はこの成功により「人造繊維生みの親」といわれ、米沢は「人造繊維発祥の地」となった。



人絹工業発祥の地